

[成果情報名] 3種類の台木品種に接ぎ木した垣根仕立て短梢剪定栽培「甲州」の特性

[要約] 「甲州」の垣根仕立て短梢剪定（コルドン）栽培において、樹齢8年生までは、101-14台に比べ、グロワール台および3309台は収量が多い。一方、101-14台は果汁の糖度が高く、総酸含量がやや低い。グロワール台は新梢が短く、剪定量が少ない。

[担当] 果樹試・栽培部・醸造ブドウ栽培科・渡辺晃樹

[分類] 技術・参考

[背景・ねらい]

「甲州」の垣根仕立て栽培においては、樹勢が強くなりやすく弱勢台が求められているが、台木の影響については不明な点が多い。そこで、穂品種の樹勢を弱めるといわれるRiparia Gloire de Montpellier(以下、グロワール)台、101-14 Millardet et de Grasset(以下、101-14)台、3309 Couderc(以下、3309)台に接ぎ木した「甲州」の垣根仕立て短梢剪定栽培における特性を明らかにする。ここでは、樹齢8年生までの特性を報告する。

[成果の内容・特徴]

- 1．発芽日、開花日、満開日、ベレゾーン期は台木間で明確な差はみられない（表1）。
- 2．グロワール台は、果房重が大きく、収量が多いが、糖度がやや低く、総酸含量もやや高いことから熟期が遅れる傾向がみられる（表2、3）。また、満開期の新梢長が短く、剪定量が最も少ない（表3）。
- 3．101-14台は、果房重が小さく、収量は少ないが、糖度が高く、総酸含量がやや少ない（表2、3）。一方、満開期の新梢長が長く、剪定量が最も多い（表3）。
- 4．3309台は、着粒程度や果房重は101-14台と同程度で小さいが、糖度は101-14台よりやや低い（表2）。満開期の新梢長が長いが、グロワール台と同様に収量が多く、剪定量は少ない（表3）。
- 5．ワイン品質の総合評価は、台木間で明確な差がみられない（表3）。

[成果の活用上の留意点]

- 1．この試験成果は果樹試験場明野圃場（垣根仕立て短梢剪定栽培、標高730m、火山灰土壌）で実施した樹齢8年生までの特性である。
- 2．短梢剪定栽培（コルドン）で収量を確保するには、主枝を延長し、適正な樹勢を維持できるか検討が必要である。
- 3．棚仕立て一文字型整枝短梢剪定栽培において、グロワール台と101-14台を比較した結果、垣根仕立てと同様に、グロワール台は果房重および果粒重が大きく、収量が多い傾向がみられたが、糖度や総酸含量に差はみられなかった（データ省略）。

[期待される効果]

- 1．本県におけるワイン用ブドウの台木品種、グロワール台、101-14台、3309台の特性が明らかとなり、垣根仕立て短梢剪定栽培「甲州」の台木選択時の参考資料となる。

[具体的データ]

表1. 台木の種類の違いが「甲州」の生育に与える影響 (2014～2015)

台木	発芽日	開花日	満開日	ベレゾーン期
グロワール	5/2	6/9	6/12	8/31
101-14	5/3	6/11	6/12	9/2
3309	5/3	6/11	6/13	8/31

明野圃場(標高730m、火山灰土壌)、垣根仕立て短梢剪定コルドン整枝、樹齢7～8年生の平均値
試験規模:1区10樹×3反復(株間2.0m×畝間2.25m)

表2. 台木の種類の違いが「甲州」の果実品質に与える影響 (2014～2015)

台木	花穂 ^z 数	着粒 ^y 程度	果房重 (g)	果粒重 (g)	糖度 (° Brix)	pH	総酸含量 (g/L)
グロワール	1.5	1.9	126 a ^x	2.9	16.9 c	2.94	8.7 a
101-14	1.6	1.7	101 b	2.9	19.3 a	3.00	7.4 b
3309	1.7	1.7	100 b	2.8	18.2 b	2.99	7.7 b

調査房数:1区10房×3反復の平均、樹齢7～8年生の平均値、平均調査日:10/20

^z1新梢当たりの花穂着生数の平均 ^y着粒程度:1(極粗)～5(極密)

^x年次と台木間の二元配置分散分析を行い、台木間の検定結果を抜粋し表記した。異符号間に5%水準で有意差あり(Tukey法)

表3. 台木の違いが「甲州」の収量、樹体生育
およびワイン品質に及ぼす影響 (2013～2015)

台木	収量 ^z (kg/10a)	新梢 ^y 発生数 (本/10a)	満開期 ^x の新梢長 (cm)	冬季剪定量 ^w		ワイン品質 ^v 総合評価
				1年枝 (kg/10a)	旧年枝 (kg/10a)	
グロワール	779	3,107	165	542	17	2.9
101-14	706	3,038	189	655	16	3.2
3309	778	3,018	198	566	18	3.1

^z樹齢7～8年生の平均値(2014～2015) ^y満開期の新梢発生数の平均値(平均調査日:6/24、2014～2015) ^x平均調査日:6/24(2014～2015) ^w2013～2014の平均値

^vワインセンターにて試験醸造、総合評価はワイン関係者のべ120名による官能評価の平均 1(劣)～5(良)(2014)

[その他]

研究課題名:台木の種類の検討

予算区分:県単

研究期間:2009～2015年度

研究担当者:渡辺晃樹、三宅正則、宇土幸伸、里吉友貴、小松正和(ワインセンター)、
恩田 匠(ワインセンター)